

第1回懇話会 委員からの事前提出意見と市の考え方について

番号	箇所	意見要旨	担当課	事務局回答案
1	骨子案全体	事業所調査の結果や県の動向を踏まえて、男女共同参画に関する市民アンケートを行うなど実態把握に努め、その結果に基づいて「案」が作成されていることは、市としての～誰もが活躍でき 尊重されるまち“やちよ”～の実現に向かっていくことを強く感じます。	男女共同参画センター	今後につきましても、市民・事業所への調査等を通じて実態把握に努め、国及び県の動向を注視しながら、基本理念に基づいた本市の男女共同参画の推進を図ってまいります。
2	骨子案 P11 6 プランの策定経過	「八千代市男女共同参画推進会議」及び「八千代市男女共同参画推進会議幹事会」の構成メンバーと役割を教えてください。	男女共同参画センター	「八千代市男女共同参画推進会議」の役割は、男女共同参画に関する施策の推進及び、やちよ男女共同参画プランに関することとなっています。構成メンバーは、企画部長を会長に、総務部長、健康福祉部長、子ども部長、経済環境部長、教育委員会教育次長となっています。 また、「八千代市男女共同参画推進会議幹事会」の役割は推進会議にあげる議題について事前に検討を行うこと等となっています。構成メンバーは、企画部次長を総括幹事に、企画経営課長、企画経営課男女共同参画センター所長、危機管理課長、職員課長、福祉総合相談課長、子ども保育課長、子ども福祉課長、子ども福祉課子ども相談センター所長、母子保健課長、商工観光課長、議会事務局庶務課長、選挙管理委員会事務局次長、指導課長、保健体育課長、生涯学習振興課長、消防総務課長となっています。両会議等は、本市の男女共同参画の推進に関わりの深い部課で構成されています。また、両会議委員等からは進捗状況報告や次期プラン案についても意見をいただいています。

番号	箇所	意見要旨	担当課	事務局回答案
3		男女共同参画社会の形成に向けての事業調査を実施されましたが、現時点で特に課題だと感じたことがありましたらお示しください。	男女共同参画センター	市内事業所における管理職に占める女性割合は 18.78% であり、管理職登用に必要な経験等を有する女性が少ないこと、また、女性従業員の活躍を進めるための取組が一定程度行われており、良い効果が発揮されている一方で、育児や介護による制約により、就労を継続できない現状等が課題と考えます。 このようなことから、働く女性の負担を軽減するための取組が不可欠であると考えます。
4	骨子案 P3 (3) 目標 3 ②数値 目標の状況	「性別にとらわれず多様な生き方・働き方を選択できると感じている市民の割合」が 18.2% という数値から、啓発活動の現状（課題）を分析し対策を検討する必要性を感じました。	男女共同参画センター	コロナ禍においては、雇用問題やDV増加など、特に女性の就業や生活に甚大な影響を与えたと言われています。大きく生活が変化したなか、その背景には、固定的な性別役割分担意識が根強く残っていることが挙げられています。 固定的役割分担意識やジェンダー平等の意識づくりに向け、当センターではこれまでも様々な取組を行ってきました。 次期プランの策定にあたっては、今回の指標の結果を踏まえ、関係機関とより一層連携を深めながら、効果的な取組を検討していく必要があると考えます。

5	参考資料③ P7 市の男性職員の育児休業取得率の推移	男性職員の育児休業の取得率が更に上昇する職場環境の整備を期待します。	職員課	男性職員の育児休業取得を促進するため、女性職員だけでなく、子どもが生まれる男性職員においても、育児休業の取得について意向確認書を作成し、所属長と面談等を行うことにより、育児休業の取得の意向を確認しております。それに加え、庁内LANには子育て支援パンフレットを掲載し、育児休業を取得した男性職員の体験談を紹介する等、周知に努めています。
6	目標1課題(3)	近年、ゲリラ豪雨・大型台風、特に地震が頻繁に起きています。東京圏の一角、八千代市においてもいつ大地震が起こるかわかりません。そこで、私は目標1の課題(3)「防災・復興における男女共同参画」に関して、避難所運営は女性、できれば女性消防団員の方々の意見を聞き入れるべきであると思います。	危機管理課	当センター主催で昨年度・今年度と行った防災講座・講演会では、危機管理課と連携しながら、避難所運営等で女性視点の重要性についての意見交換や防災・復興時における男女共同参画の必要性について考える場を提供しました。その際、女性消防団の方々にもご参加・ご協力いただくことができました。 危機管理課においても、継続的に地域の防災訓練等で、女性参画の重要性についての説明を行っています。 「防災・復興における男女共同参画」施策は次期プランでも重要な取組と考えており、今後も、当センターでは危機管理課や消防総務課と連携し、女性消防団の方々のご協力も得ながら、地域防災への女性参画の必要性について考える機会を提供していきたいと考えています。

7	目標 1 課題(3)	<p>○防災・復興における男女共同参画に携わる女性の職員の割合の妥当性について</p> <p>地震後の報道で気になりましたが、避難中の女性は避難所の対応職員に女性がいることで精神的に安心するとの意見があり、八千代市の担当部署の女性職員数は具体的にどのように配置されているか気になりました。</p>	危機管理課	<p>危機管理課の職員配置については、令和6年4月1日現在で課長を含む職員14名のうち、女性職員は2名配置されています。</p> <p>また、災害時に避難所運営を行う職員は、男性職員が113名、女性職員が55名となっており、女性職員の比率は約3割となっています。</p>
8		<p>○ヤングケアラーの問題について</p> <p>直接は子ども部の管轄のように見受けられますが、男女共同参画プランの中にも明記した方がよいのではないかと考えます。</p>	子ども相談センター、男女共同参画センター	<p>子ども相談センターでは、他機関との連携により、支援対象者の把握に努め、ヤングケアラーへの支援につなげています。今後は、ケアの内容や本人が置かれている状況によって多機関協働による支援体制について関係機関等と協議していく予定です。</p> <p>男女共同参画センターとしましては、福祉部門にて包括的な支援体制が整っていることから、当センターが取り組むべき重点課題を整理し、取り組んでいきたいと考えています。</p>